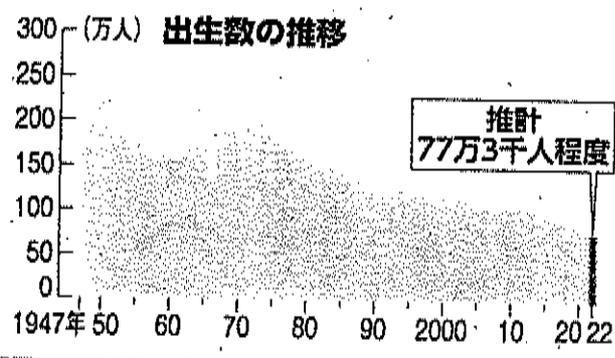


今年の出生数77万人台

本社算出 少子化、想定より11年早く

2022年に国内で生まれた日本人の子どもは、推計で77万3千人程度になる



ことがわかった。国と同じ方法で朝日新聞が計算した。1899年の統計開始以来、70万人台になるのは初めて。77万人台は政府の想定より11年も早く、少子化は一層加速している。

厚生労働省が1年間の出生数の推計に使う計算式に、2022年1〜10月の速報値などの統計をあてはめて算出。その結果、22年の出生数は77万2525人となり、前年より4・8%減少する見通しとなった。

国立社会保障・人口問題研究所が17年に公表した将来推計人口では、出生数が80万人台を下回るのは30年

(79・8万人)、77万人台に入るのは33年(77・6万人)と見込んでいた。

第2次ベビーブームの1973年は209万人余りの子どもが生まれたが、その後は減少傾向が続く。政府は結婚や子育てなどの希望がかなった場合に想定される出生率「希望出生率1・8」の実現を少子化社会対策大綱(20年5月)で掲げるが、21年の合計特殊出生率は1・30にとどまる。

日本総研の藤波匠・上席主任研究員は「若年層の経済・雇用環境の悪化に手を打たないと少子化は止まらない」と話す。(久永隆一)